

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 2779101803 | | |
| 法人名 | 株式会社 カームネスライフ | | |
| 事業所名 | グループホーム ここから加島 | | |
| 所在地 | 大阪市淀川区加島4丁目17番29 | | |
| 自己評価作成日 | 平成22年3月31日 | 評価結果市町村受理日 | 平成22年7月2日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|--------------------------|
| 閉そく感のない自然な環境 利用者本位の介護 |
|--------------------------|

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|--|
| 基本情報リンク先 | c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2779101803&SCD=320 |
|----------|--|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|------------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター | | |
| 所在地 | 大阪府大阪市中央区常盤町二丁目1番8号 親和ビル402号 | | |
| 訪問調査日 | 平成22年5月17日 | | |

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|---|
| 経営母体の(株)カームネスライフは介護関連事業を多角的に経営しているが、「グループホームここから加島」は、その事業の一つで平成18年3月に設立された。「ここから加島」の「ここから」は心も体も健やかでと言う創設者の願いが込められている。事業所の特色は、運営推進会議や家族会にある。運営推進会議や家族会には半数以上の家族が参加して、意見や要望を出し、運営に関わっている。また、入浴支援も素晴らしい。日曜日を除いて何時でも利用者の希望に合わせて入浴出来るように支援がされているのである。時には、朝7時からの対応もするという。利用者本位の介護がここにはある。 |
|---|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|--|--|----|---|--|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | カームネスリネンのほかに地域に根ざし地域とともに生活出来る環境づくり。心身ともに健康であること、楽しく生活できることを理念にし、実践している。施設内でいつでも目に付く場所に掲示し認識をしてもらっている。 | 「地域に根ざし地域と共に生活できる環境を提供します。心身ともに健やかで楽しく過ごせるように援助します」を事業所の理念とし、玄関のよく目に付く処に掲示し、職員はその理念を共有して実践につなげている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している | 地域からお知らせの配布をいただいたり、神社のお祭り参加などを通して交流を図っている。毎日の散歩時のあいさつなども基本的には徹底させている。 | 事業所として自治会に加入し、地域の一人として行事に参加したり、自治会の掲示板を利用して事業所の行事への参加も呼びかけている。また、地域高齢者の相談にも乗りながら日常的に交流している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 町会に加入し、出来るだけ地域交流会などに参加し、質問などに答えている。近くの理髪店やコンビニなどに利用者をお連れしている | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 施設での出来事、職員の交代など細かく報告している。また、意見はその日のうちに職員に伝達しサービス向上に努めている。 | 入居者、家族、自治会代表、地域包括支援センター職員、事業所職員等が参加し2ヶ月に1度開催している。特筆すべきは約半数の家族が参加して運営上の提案をしている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 包括や運営推進会を通して施設の内容を知って頂いている。 | 区役所窓口や地域包括支援センターとは、運営推進会議や書類提出時など、折に触れ事業所の実情やサービスの取り組みについて伝えている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束については具体的な行為などの資料を職員に目を通してもらい正しい理解をしてもらえるように努力をしている。 | 全ての職員が身体拘束をする事によって与える身体的精神的苦痛を理解し、拘束のないケアの実践に努めている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待については、自分たちの何気ない態度が虐待につながることを日ごろから意識し、また研修をして行くようにしている、 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 積極的に研修を行っているわけではないが外部研修などをとおして活用している。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 運営推進会などを通して、説明をしている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 運営推進会などを通したり、職員が聞いた意見をすぐに形に変えるように対応している。意見箱の設置をしている。 | 多くの利用者家族が運営推進会議や家族会に参加して積極的に意見や要望を出している。それらは直ちにフロア会議にはかり、運営に反映させている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | フロア会議や、ミーティングでの意見交換をしている。 | 毎日のミーティングや月に一度のフロア会議で緊急時の連絡体制のあり方など運営に関する意見や提案の機会を設け、運営に反映させている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 出来るだけ職員の状況把握し研修などを通したり、面談の場を設け環境づくりをしている。調理など長時間立位での業務には椅子の使用を進めている | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 研修を推進し出来るだけまんべんなくさまざまな研修が受けれるように勧めている | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 淀川区のグループホームの会に参加したり、勉強会に参加している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 利用相談された時点で、その方にとって良い状態はどのような環境なのかを考え、ご家族とともに受け止めていっている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ご家族の立場はどのような状態なのか、ご家族の思いとご本人の感じるものの違いを話し合い、できるだけご本人の気持ちをご家族に伝える様にしている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入居を前提に話をするのではなく、その方にとって今、何が必要であるかを話し合っている。体験入居を通し、今までの生活延長を継続できるようにしている | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 一緒に生活する仲間としてともに苦楽を過ごしている | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ご家族の悩みなどを早期に思い、話し合いの時間を設けている。できるだけ「している側」という思い込みの介護はしない様にしている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 本人の思いを大切に、いままで使用されていたもの、また、行きつけの場所、医者などは大切にしている。 | 利用者本人がこれまでの地域社会との関係を続けていくことが出来るようにするため、友人の処へ出かけていったり、今までの馴染みの場所へ出かけて行く支援をしている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | できるだけ利用者同士の対話があるように、その間に立ってゆっくと進めている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退所された方についても連絡を取って現在の状況を聞いたりしている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 一人ひとりの生活環境が異なるため、出来るだけ本人の希望に沿って対応している。 | 毎日の関わりの中から、利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努め、友人の家を訪問したり、馴染みの店などへ出かけていくなど、出来る限り希望にそった支援をしている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 飲酒、喫煙なども希望があれば継続している。基本的には入居面接時のアセスメントや、食事、生活環境を大切に、職員と共有できるようにしている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 自然体に過ごして頂くのが基本なので、本人のペースに合わせ無理のない生活を送って頂いている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 問題点があればその都度ミーティングし改善していった。サービス担当者会議にも積極的な意見を出してもらっている。 | 利用者がその人らしく暮らすことが出来るために、本人、家族等や必要な関係者と話し合い、アセスメントとモニタリングを繰り返しながら現状に即した介護計画を作成している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 記録の為の介護にならない様に、また、記録から本人が見える様に、勉強会などに参加し記録の見直しをしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 基本的には本人の思いが達せられるように努力している。希望があれば「無理」ではなく「実行」するために何が必要かを職員で考えている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域への参加、カラオケ大会などの参加、町会からのお知らせを大切に、できるだけ地域交流をしている | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 出来るだけ入居前のかかりつけ医に受診するようにしているが、ご家族、本人に説明後慣れたころに提携医療に移行している。 | 本人や家族等と相談しながら、出来るだけ事業所の協力医をかかりつけ医として往診して貰うようにしている。しかし、今までのかかりつけ医の受診も家族等と相談しながら支援している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 医療についての問題点は早期に把握し適切な受診をしている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時にご家族とともに病状説明を聞き、早期に退院を出来るようにし、病院関係者とともに話し合いもして行っている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化した見取りについてご家族と十分話し合いの場をもち、医師とも連絡し方針を共有して行っている。 | 重度化した場合の対応のあり方について、事業所の指針を作成、対応しうる最大のケアについて説明し、利用者または家族等の同意を得ている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 応急手当は年1回のわりで研修している。新入植者に対してはカームネスの新人研修時に実施している。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2日の消防訓練と地域に声かけをし、緊急に対する対応をしている | 一年に二回消防署の協力を得て避難訓練、消火器の使い方や避難経路の確認等を行っている。しかし、災害時に備えた非常用食料・備品等の準備はされていない。 | 災害時に備えて食料品や飲料水、懐中電灯や紙おむつ、寒さをしのげるような備品等の準備が望まれる。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | つい大きな声で名前を呼ぶことがあり職員同士でプライバシーについて考えていく必要がある | ケアプラン等の個人情報に関する資料は、厳重に書棚に保管している。また、昼食時などの介助もさり気なく行われていた。しかし、プライバシーの保護の取り組みに関する研修は実施されていない。 | 是非、プライバシーの保護の取り組みに関する研修を実施し、さらなるスキルアップを図って欲しい。 |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 本人の希望や表出する言動については希望がかなう様に心がけている | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 職員のペースではなく個人のペースに合わせて支援出来ている | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 習慣で髪をきちんとしていた方については一緒に櫛で解いたり、上下の組み合わせなどを注意している。本人の着たい服を聞いたりしている。また、外出時はお化粧品やおしゃれに気をつけている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 準備などが一緒にできる方が少なくなっているがお皿に取り分けたり、台ふきなど一緒にしている。おやつは一緒に作る場面を多くしている。 | 業者の食材による食事と週に2回の利用者のリクエストによる食事を併用しながら、食事を楽しむ事の出来る支援をしている。職員は利用者と一緒のテーブルでさりげなく介助をしながら楽しく食事する風景が見られた。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 一人ひとりに合わせた食事量や形態にしている。水分が自分で摂取できない方には毎日水分摂取量を把握し、無理強いのない様に必要量を飲料して頂いている | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後うがいと歯磨きを励行している。出来ない方は緑茶を食後に飲んで頂いている。強い拒否の方には特に食後のお茶を飲んで頂くことで代用している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄パターンが把握できているかは不明だが、できるだけトイレでの排泄をすすめている。 | 利用者一人ひとりの排泄パターン表を作成して、あからさまな誘導ではなく、さりげない言葉掛けによるトイレ誘導をしながら、排泄の自立に向けた支援を行っている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 水分補給や適度な運動で便秘の管理をしている | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 入浴はご本人の意思に沿って進めており、体調なども考え毎日がその人にとって入浴可能な日である様にしている | 日曜日を除いた毎日、10時から17時まで入浴の準備がされていて、利用者一人ひとりのこれまでの生活習慣に合わせた入浴を楽しむことのできる支援をしている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 高齢者が自分の好きな時間に寝て動けるように配慮している。また、朝遅く起きたい方についても対応をしている | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬の内容についてはすべて職員に周知できているわけではないが、特別な薬などは注意事項などを徹底している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | お茶、おやつ、果物など時間にこだわらずにご本人の調子を見ながら勧めている。また、食器を洗ったり、洗濯物干し、台ふきなど個人に合わせ勧めている | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 天候を見ながら出来るだけ希望に沿って外出している | 一人ひとりのその日の希望にそって、公園への散歩の他、友だちの処へ出かけたり、馴染みの喫茶店へ出かけたりしている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | お金は基本的にはお預かりしていないが、買い物時に自分で支払いをしたい方には配慮している | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 郵便セットや希望により電話の取り次ぎや自分で出来るように配慮している | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 車椅子が自分で操作できまた安全に過ごしていただけるように配慮している。特にトイレは時間毎にチェックし快適に過ごせるようにしている。 | 共用空間である玄関・廊下・居間などはゆったりした広さが確保されており、季節の花が生けてあったり、ソファなどが置かれていて居心地よく過ごせる工夫がそこかしこに見られる。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ソファの位置や、ご本人が居たい場所で過ごして頂けるようにしている | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居時に日ごろご本人が利用してこられたものなどを持参しなじみの環境で過ごして頂けるように配慮している | 居室は、利用者の使い慣れた家具や家族の写真など、思い出の品々が持ち込まれ利用者が居心地良く過ごせる配慮がされている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | エレベーターの自由な移動や、出来ることを大切に個人対応を主として介護にあたっている。介助が主ではなく、支え自立の為の援助をしている。 | | |